



執行部退任のご挨拶 ～6人の役員が退任されます 長い間お疲れ様でした～

大越 正吾・副執行委員長

今年度で市教組執行部を退任させていただくことになりました。この間、書記長、副委員長をはじめ様々な役職を経験させていただきましたが、組合員の皆様のご期待に添えるような仕事ができなかったことは、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

大阪市の教育を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。市教組の役割は一層重要になっています。組合員の皆様におかれましては、引き続き、市教組運動への結集と、23年度執行部への叱咤激励をお願いいたします。私も引き続き、市教組「専任執行委員」と大阪教組「中央執行委員」として運動を支えていきたいと思っております。

長い間、支えていただき本当にありがとうございました。

藤原 博司・副執行委員長

執行委員3年、副執行委員長として2年間努めさせていただきました。この間に、二度にわたる住民投票など多くの課題と向き合い微力ではありますが、市教組役員のみなさんと取り組みをすすめてきました。

また、たくさんの方と出会い語り合うことで、人権・平和など多くの知識を深め経験することができました。組合活動の中で沖縄平和行進に参加したことは、私にとって大きな財産となっています。新型コロナウイルス感染症の拡大で例年とおりの活動ができない中ではありましたが、組合運動をとおしてのつながりや組織の重要性を再確認することができました。

今後は、この経験を活かし、学校現場から組合活動を支えていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

川崎 純代・書記次長

今年度末、定年をもって本部・専門部役員を退任いたします。新採4年目で旧：東南支部の養護教職員部常任委員になってから支部・本部・大阪教組の役員に選出いただき、今日まで続けることができました。組合員の皆様からのご理解ご協力があったからこそと心より感謝申し上げます。

組合役員になったきっかけは学校で行われていたインフルエンザ集団予防接種反対運動でした。学校での集団接種を行わないよう、市教委交渉で本部役員がするどく迫る姿に、専門部課題を組合全体の課題として捉え、労働条件の改善だけでなく真の子ども健康保障に取り組む教職員組合の意義を感じました。この間、活動を通して様々な方々と出会い、視野を広げていただいたことが何よりの財産です。

教職員を取り巻く環境は厳しいですが、働き方改革を実行できるのは労働組合だけです。引き続きの市教組へのご結集をお願いし、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

藤原 裕文・執行委員

執行委員として活動する間、新型コロナウイルス感染症の影響で学校が臨時休校、給食も中止、定期大会の延期と当たり前前ことができない中、当たり前前ができる大切さを実感しました。しかし、ピンチの時に組合員の声を聴き、子どもたちの学びを一番に考え、いち早く勤務労働条件の改善を勝ち取る運動に携わり、市教組の力強さ、組合の大切さを感じました。学校給食では、臨時休校時に栄養バランスのとれた食事をとれていない子どもたちが増加したとの報告もあります。ますます学校給食の役割、重要性が注目される中、アレルギー対応児童の増加や給食室の老朽化、給食の民間委託校の増加などに伴う課題や悩みはまだありますが、市教組の取り組みで少しずつ改善しています。

今後は、一組合員として、組合活動に参加させていただきたいと思っております。3年間ありがとうございました。

中 敏之・執行委員

今年度末をもって、市教組執行委員を退任することになりました。市教組本部の執行委員としては12年、それ以前の旧北大阪支部・現北部支部を含めると、およそ二十数年間の執行委員をさせていただいたこととなります。この間、実に多くの方々とお会いすることができました。特に、自分と異なる校種（私は中学校籍なので小学校籍）の方々や、養護教諭、学校事務職員や栄養教職員といった少数職種の方々、ともに市教組運動に携われたことは、とても大きかったと思っております。同じ学校という職場であっても、多様な立場の方がおられ、思いも様々であるという、考えれば当たり前のことですが、学ぶことができました。

4月からは再任用教諭となりますが、引き続き市教組の一組合員として、頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

植松 治美・執行委員

この3年間、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響は大きいものでした。学校行事の中止や変更、日々の感染対策、子どもたちへのフォローなど私たちの負担は増える一方でした。そのような中で、組合は私たちを守るために、特別休暇やマイカー等通勤、テレワークなどの権利を勝ち取りました。組合に入っていてよかったという声も聞きました。また、出産サポート休暇などの出産や育児にかかわる権利の拡充など女性に関わる課題についても取り組みが進んでいます。これらの活動に微力ですが参加できたことをうれしく思っています。

4月からは、女性部課題への取り組みがさらに進められるよう女性部の活動で頑張りたいと思っております。ありがとうございました。

4月の組合費の引き落としは

4月20日(木)

※働きがいのある職場を実現
するため、なかまの声かけて
組合員を増やしましょう！

広報部メモ

大阪市内全校に、欠席連絡アプリ「ミマメルメ」が導入される。私の勤務校では、2月途中から運用が始まった。開始された途端、これまで途切れることなくかかってきた朝の電話が激減した。慌ただし朝の時間が、少し穏やかになった気がする。これも「働き方改革」なのかなあと思いつつ、朝の電話連絡のみでしか接点を持たない不登校児童の保護者と話す機会が無くなってしまったと嘆く担任の声を聞き、考えさせられるものがある。負担軽減も大切にしつつ、家庭に寄り添う気持ちは忘れないようにしたい。(K)

中央委員会 = 白熱！6本の討論 =

3月2日、第409回中央委員会が開催されました。議長に南部支部・横山中央委員、西部支部・大藪中央委員が選出され、議事が進められました。冒頭、松岡委員長から卒業式でのマスクの取り扱いや教員の長時間勤務に係る給特法の見直しについて説明がありました。次に、執行部より「当面の闘争推進に関する件」、「2023年度4・5月分組合費に関する件」、「2023年度一般会計4・5月分暫定予算」の提案がありました。討論には6人が参加し、現場での実践や専門部の取り組みが報告されました。採決では執行部原案が圧倒的多数で可決・承認されました。討論内容は以下のとおり。



光安中央委員（事務職員部） 組織の結束を高めるための集まりや、加入促進のために歓迎集会や分会訪問を行いました。今期で事務職員部の役員を退任します。10年弱の間でしたが、現場で仕事しているだけでは、できないような貴重な経験・出会いをさせていただき、ありがとうございました。



神吉中央委員（北部支部） 自校通級モデル校の打診があり、次年度入学予定の保護者とも相談して、5人で申請を上げた。2月になって突然、人数が少ないので開設できないと言われた。組合に相談して、5人は支援に入級できるようになったが、声を上げることもできない学校もあったのでは？



中世古中央委員（北部支部） 来年度、副校長が外される。課題のある学校ということで配置されていた。3学級4展開などの取り組みを行っていたのだが、市教委には現場の声が届いていない。教育の質を高めるには、人が必要。組合に結集して、声を上げていこう。

大浦中央委員（栄養教職員部） 2月24日、3年目までの栄養教職員を対象に親睦交流会を開催し、25人が参加しました。職場に1人しかいないので、新採用は困ったことがあっても誰に相談したらいいかも分からない。横のつながりが必要。組合の取り組みを通じて、さらに広げていきたい。



有田中央委員（東部支部） 執行委員会で学習会などの取り組みを考えている中で、女性は子育てや家庭のことでなかなか参加しにくいという話に。子連れOKなど、女性が参加しやすい環境づくりが必要。子育てで忙しいときでも気軽に参加できて、リフレッシュしてもらえたらいいのでは。



高岸中央委員（南部支部） 2月22日、事務職員部・青年部合同で学習会を開催しました。事務職員部からは共同学校事務室について、青年部からはICT活用について報告。お互いに知らないことがとても多いことに気付かされた。3月20日には小中連携をテーマに学習会を開催します。



軍拡・改憲より くらし・平和 2・12 KANSAI 集会

2月12日、中央公会堂にて反戦・平和集会が開催されました。講師に政治学者の五野井郁夫さんを招き、「安保関連3文書―防衛費倍増をどう考えるか」をテーマに講演がありました。12月に敵基地攻撃能力の保有、今後5年間の防衛費を43兆円とする安保関連3文書が閣議決定されました。その背景は何か、ヒントとなるものが米戦略国際問題研究所（CSIS）の報告書です。中国軍が2026年に台湾へ上陸作戦を実行すると想定し、シミュレーションを行いました。その中では日本の参戦がほぼ前提とされています。（下の表を参照）また、日本が米国から戦闘機等を購入するFMS調達の問題点などが明らかにされました。「今回の安保関連3文書は戦後日本の安全保障を大きく転換するものであり、GDP比2%規模の軍事費は予算を圧迫し、教育や福祉の予算削減につながっていくことが容易に予想される。反対の声を上げていきましょう。」とまとめられました。

	戦闘機の損失				艦船の損失			
	米国	日本	日米計	中国	米国	日本	日米計	中国
基本シナリオ	270	112	449	155	17	26	43	138
悲観的シナリオ	484	161	646	327	14	14	28	113
楽観的シナリオ	200	90	290	18	8	16	24	129

さよなら原発 関西アクション 原発やめて！核燃サイクル中止！

3月5日、エルおおさかにて反核・反原発集会が開催されました。第一部では Our Planet-TV の白石草さんから「誰にも言えなかった甲状腺がん患者の現実」と題して、講演がありました。 Fukushima 原発事故以降の甲状腺検査の実態、1巡目検査（2011～）18歳以下の100人以上が甲状腺がんと診断されているにもかかわらず、「被曝の影響とは考えにくい」とされたこと。2巡目（2014～）でがん診断された71人のうち、9割が1巡目で「問題なし」であったこと。それでも被曝の影響を認めたくない「県民健康調査」検討委員会。過酷な治療実態、患者の悩みや4人に1人が進路変更を余儀なくされていることなどが報告されました。

第二部は元原子力資料情報室の澤井正子さん「六ヶ所再処理工場が危険な理由」の講演がありました。1993年の工事着工（97年完成予定）から30年経っても完成せず、日本原燃は竣工延期を既に26回繰り返しています。六ヶ所でこれまでに起こった16件の事故・トラブルや、世界各地の再処理工場における重大事故の深刻な実態が報告されました。世界では高コストの上、安全性に懸念があるとして、核燃料サイクル政策からの撤退を始めています。「今、各地の原発冷却プールに保管されている使用済み核燃料は、数年で容量一杯になるとされています。核のごみをこれ以上増やしてはならない。原発の即時停止と再生可能エネルギーへの転換が求められています。」とまとめられました。

各支部評議員会のお知らせ 校務等で欠席される場合は必ず委任状を提出して下さい。

4月19日（水）：東部支部（エルおおさか）・南部支部（大阪市立社会福祉C）

4月20日（木）：北部支部（大阪市総合生涯学習C）・西部支部（西成区民C）